

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370400600		
法人名	医療社団法人聖和会		
事業所名	グリーンライフヴィラ荒尾		
所在地	熊本県荒尾市本井手1480-26		
自己評価作成日	令和3年 12月 12日	評価結果市町村報告日	令和4年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和3年1月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者が、施設に入居することにより、何かを強いられたり、圧迫感を感じる事がなく、自分のペースでゆったりとした生活を送ることができる。 ・定期的な行事や、地域の催し物に参加する機会があり、入居以前の暮らしに近い生活を継続できるような支援を提供できる。 ・敷地、建物は十分な面積があり、廊下やリビングは広々としており、開放的で穏やかな雰囲気がある。 ・同一敷地内に併設してある小規模多機能施設とは綿密な連携を取っており、そこで行われる様々な慰問等の催し物に参加できる。かつ、ホーム内で阻害感を感じたり、不穏等で環境の変化が必要な際に、逃避先としての居場所にも活用できる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>落ち着いた和風造りの事業所は共用スペースも居室も日当たりが良く、穏やかな生活が営まれています。入居者の動きや行動を制限することもなく、しかしながら見守りを中心として安全にも配慮されています。毎年職員の意見で決まる年間目標は入居者それぞれの尊重と穏やかな生活を思い起こす内容で、生活全般で入居者の身体状況や体調、その日その時々々の気持ちに合わせたケアが行われています。食事も三食職員の手作りで、時には入居者と買い物に向いたり、食事の準備を一緒にする姿も続いています。食事時間には職員も共にテーブルを囲み、大家族で過ごす時間のようです。近年入居者も高齢化し、介護度も高くなってきているようです。住み慣れた地域での生活を支えながら、これから人生最期を過ごす「家」となっている様子がうかがえました。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年度、事業所理念に基づいた年度目標を掲げている。また、毎月スタッフミーティングで決定される月間目標はその年度目標に則したものが挙げられるようになっている。	事業所理念をもとにより具体的に示した年間目標を定め、毎月振り返りを行っている。理念に通じる年間目標と月間目標は職員の意見から決められ、入居者のよりよい生活に繋がるものとなっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者が定期的に地域住民や、代表者、地域在住の入居者家族を訪問し、関係作りを行っている。また、地域行事への協賛など法人を通して行っているが、職員個々での交流は少ない。	コロナ禍で地域行事への参加や交流が難しい状況である中、管理者は近隣への声掛けや訪問を継続している。例年、老人会との交流やボランティアの受入れ等もみられる。	継続した声掛けや関わり作りで法人・事業所と地域の交流は継続したものとなっています。コロナ禍が終息した際には、入居者と地域との交流の機会作りに期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所で認知症のある人やその家族困っている際の相談窓口は常時開放しているが、受身であることは否めない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍と言うこともあり、自治体の要望にて今年度は運営推進会議は行っていない。しかし、適宜自治体窓口へ訪問し、運営状況報告を行っている。	現在、感染症拡大の懸念から運営推進会議の開催は行っていない。	行政の要望により運営推進会議の開催が難しい状況がうかがえました。管理者は地域への訪問や声掛けを継続しております。地域との関わり作りや地域・家族等からの意見を得る機会作りを継続して頂きたいと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍ということもあり、定期的ではないが、市町村とは適宜連絡を取り合っている。	例年運営推進会議への参加もあり、日頃の報告・連絡・相談、手続きによる訪問等を行っている。市による認知症高齢者を支える仕組みや地域包括支援センターとの関係作りにも取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の業務の中で話し合うことはあるが全体で話し合う共通した時間は取れていない。身体拘束においてはスタッフミーティングの際に、事例や資料を配布している。	会議の際、職員に身体拘束に関する資料等を配布している。身体拘束ゼロ宣言6つの基準チェックリスト、管理者向自己点検シート、職員向セルフチェックリスト等を用い、事業所・自身のケアについて振り返りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の業務の中で話し合うことはあるが全体で話し合う共通した時間は取れていない。玄関施錠などは行っていないが、個々の判断によるところが大きい。		

グループホームグリーンライフヴィラ荒尾

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者はすでに学ぶ機会を経ているが、スタッフにも以降研修の機会を設ける計画を立てている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	納得していただくよう説明後にも質問を受け付ける時間を設けている。また随時相談を受けることも可能であり、納得が得られない場合契約破棄も可能である。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時など日頃の様子を伝え将来のことも踏まえ意見や要望を引き出すようにしている。必要時には家族会を開催している。	感染症拡大の懸念から従来のような面会受入れが難しい状況であったが、できるだけ受入れ、家族との時間を過ごして頂き、それを機会に意見をj得る機会としている。日頃の電話連絡では管理者だけでなく職員からも入居者の状況を伝え、家族と職員のコミュニケーションを図り、意見が出しやすい関係作りに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議前には懸案事項など、スタッフの意見を引き出すようにし、会議の場だけでなく日頃からのコミュニケーションも大切にしている。ミーティングではどのような意見でも圧迫されることがない。	管理者はケアに携わっており、日頃から職員の意見や提案を聞く姿勢を持っている。毎月の職員会議では職員は事前に意見や提案を表し、会議の場面でも職員それぞれの意見が出ている。事業所では職員も「環境」の一部であるとの考えから、それぞれの意見を出し合い、話合うことを大切にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人での研修、勉強会の機会を提供し、職員各自が独自に技能習得、知識習得向上できるよう条件を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人は、管理者、職員に対し、メンタルトレーニングを含んだ、自己啓発研修に力を入れている。研修は3月に1回のペースで開催されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他法人の参加する研修会などでは交流を深めることができたが、例年行われるグループホーム連絡会主催の勉強会はコロナ禍で開催できなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階で無理に関係作りを焦ってしまうと、かえって不信感を増強してしまうこともある。その為、自然な時間の流れと併せながらコミュニケーションをとり、不安や要望を引き出し、共感していく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族にとって初期の段階では、大きな不安や疲労感を伴っていることが多い。まずは、家族の話全てを受け止め「聞く」姿勢を大事にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を決める段階で、本人や家族と面談し、本人が必要としている支援、提供できる支援を考慮した上で利用している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに一人の人間として尊重し合えるよう意識している。その為、スタッフは家庭内のことやプライベートなことなどを入居者に相談するという場面もみられる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を支えるために、家族の理解と協力はなくてはならないものと捉え、普段より連絡を取り合い、情報を共有しつつ「一緒に」支えていく構図を取れるよう意識している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームより入居者の馴染みの関係である知人の面会や、電話を積極的に依頼するようにしている。	従来のような地域や知人等の気軽な面会受入れは難しい状況だった。家族には玄関やパーティション利用等、感染症の拡大状況により段階を設けながら面会を受け入れ、関係継続に努めた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士、人間関係においては一種の社会の縮図のようなものと考え、スタッフは無理に介入しないようにしているが、同時に怪我や事故などが発生しないよう配慮している。		

グループホームグリーンライフヴィラ荒尾

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用後も、継続的に電話連絡など行ったり、顔を出すようにしている。その為、サービス終了後も家族やその縁者から相談を受けたりすることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に要望、希望をリスニングするようにしている。また、本人からの発言で要望があった際には日誌などにそのまま記載し、スタッフ間で情報の共有を図っている。また、その内容は家族にもお伝えしている。	入居者の思いや意向は日頃の職員の寄り添いの中で把握する。訪問時にも入居者と語らう職員の姿がよく見られた。入居者の思い等を表す言葉は記録され、共有している。思いを表すことが難しい入居者には特に家族ともコミュニケーションを取り、入居者の意向に沿ったケアに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメントシートである程度の情報を得ることができるが、入居後改めて本人や家族に入居前の生活や生活歴などを聞き、情報に深みを持たせていくようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのADLをはじめ心身の状況に応じて日常生活の役割など支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前より本人のケアのあり方について伺うようにしており、ホームでの暮らしに即した支援のあり方をケアプランに反映するようにしている。	日頃のケアは入居者一人ひとりの介護計画に沿って進められている。記録は介護計画の短期目標を項目に挙げ、それぞれに記載していることから、職員の共有のもと、一人ひとりの体調の変化やケアの変更が必要な際にも全職員で関わり検討に繋がっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃のかかわりや支援の中で、気づいたことや工夫があれば日誌に記入している。カンファレンスではその内容も含んだ話し合いが行われており、ケアプランに反映されている。また、会議などを通じて、職員間で精査している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の周知及び地域への認知症啓発の拠点としての機能を備えることを目的とした、地域参加型の勉強会などの開催も視野に入れている。		

グループホームグリーンライフヴィラ荒尾

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居後も継続してなじみの人との関わりを継続することが出来るよう、地域資源の把握と、発掘は常に意識している。今年度はコロナ禍ということもあり、積極的に取り組みはできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に入居後も以前からのかかりつけの診察を受けることが出来るようにしている。しかし、通院介助は基本家族によるものとしている。	入居前からのかかりつけ医の継続した受診を支援している。現状、数か所のかかりつけ医から往診や送迎による診察を受けている。体調が変化し、必要と判断された場合には訪問看護も受け入れている。隣接事業所には看護師資格を持つ職員もいることから相談できる環境である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職には日常の健康状態を見てもらいながら、必要な医療的アドバイスをもらうようにしている。必要であれば訪問看護利用や医療機関の看護職に相談するようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院などの案件が発生した場合、すぐに介護サマリーやアセスメント票を提示できるようにしている。また、関係作りや、情報交換のため、入院時も面会は欠かさず行うようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化やターミナルケアについての指針は入居時に書面で説明し、同意を頂くようにしている。また、家族の意思や考え方も変化していくものであるため、面会時などに状況説明し、指針に変更はないか随時確認するようになっている。	入居時に事業所の対応を説明し同意を得ている。実際にその時を迎えた際には家族の意向を確認しながら関係機関と協力し支援を行う。看取りまでの意向がある場合、他機関と連携のもと、訪問看護も受入れている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	現在、救急救命における研修や勉強会に参加している実績は薄く、スタッフ個々の経験値や技術によるものが大きい。救急マニュアルや、訓練等の必要性を感じている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との消防団とは合同で入居者の避難誘導まで行ない、職員と協同して災害時に備えている。今年度はコロナ禍ということもあり、合同訓練は実行できていない。	例年、地域の消防団にも参加いただき行う訓練には消防署から講評も得ている。今年度はコロナ禍であるため、事業所内での訓練を行っている。	自然災害は少ないと思われる地域ですが、いつ何が起こるか分か予想できません。隣接事業所との合同訓練も大切ですが、自事業所職員だけの訓練も必要と思います。夜間一人体制時等、ケースを想定した訓練やシュミレーションの繰り返しも大事ではないでしょうか。

グループホームグリーンライフヴィラ荒尾

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉、口調だけでなく、その表情や声のトーンまで気かけながら、支援者の感情のあり方も意識して取り組んでいる。また、月間目標などで定期的に挙げていくことで意識を高めることもある。	入居者一人ひとりを尊重した対応は日頃のケアで配慮している。今年目標は「入居者を知り」、「個性が尊重されたその人らしい暮らし」等、入居者の尊重に関わる文言が挙げられており、毎月日々のケアを振り返っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本的に物事を問う再いくつか選択肢を用意し、選択していただくようにしている。(メニュー等)問いかけに対しての返事が無い時は、表情や動き出しの有無などで、本人の意志を理解しようと努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まりごとは極力作らないようにし、日々で変化する、入居者の気分や体調に沿って柔軟に対応できるようにしている。生活においての希望は日常的に聞くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力の元、本人の好みの衣類や化粧品などを身につけることができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みや、本日のメニューなど、ゆったりしている時間などを利用してゆっくり聞き出している。食材の買出しや、準備、片付け、役割や楽しみを持ちながら、自然に生活リハビリとして取り入れることに成功している。	入居者の希望や季節の食材等、その日の状況で買い物から食事作り、準備、片づけと、家庭での生活そのものである。それぞれの状況により、全体的に関わりを持つことができる入居者も少なくなってきたが、買い物や食事作り等、できる範囲での関わりを継続している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は野菜を中心に、入居者の食べやすい量と形状を考慮し提供している。必要に応じて栄養補助食品も利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自菌や義歯などの状態を定期的に確認している。毎食後の口腔ケアについては一部の入居者に実施提供している。		

グループホームグリーンライフヴィラ荒尾

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が必要な方であってもなるべくトイレでの排泄を支援している。また、オムツ対応にする場合も全体会議で慎重に協議し、移行するようにしている。	出来るだけトイレでの排泄ができるよう支援している。介護度が高くなりオムツへの移行を感じられる際にも職員間で検討を重ね、まずは職員の対応で対処し、安易な変更は行わない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝必ず発行乳製品を提供するようにしている。また、主食には雑穀を混ぜ、副食は野菜中心としている。消化能力の低下している入居者にはその形状も消化しやすいよう工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は2日に一度のペースで入れるようにしている。また、希望があれば毎日の入浴も可能である。	基本的に一日おきの入浴、希望すれば毎日の入浴も可能である。介護度が高く、入居者の負担となっていると感じられるケースが見られた際には、無理をせず、職員間で検討し、週2回程度の入浴とした例もあった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休憩において、時間などを設けているわけではないため、入居者は思い思いの時間に好きな場所で休憩することが出来るよう、共有スペースのみならず、プライベートスペースの室温も配慮している。また、1人になれるスペースも確保している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関に相談しながら必要最低限のものになるよう配慮している。そのため、受診往診時には、直近の情報をまとめて文書で情報提供している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居後は家事活動などになるべく楽しみながら参加していただけるよう支援し、本人の残存能力保持を目指している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	今年度はコロナ禍ということもあり、敷地内の散歩程度であり、積極的な外出支援は行えてない。コロナの状況を見て、可能であれば家族支援の下外出できるよう依頼することもあった。	昨年からの従来のような気軽な外出は難しい状況であったが、日常的な散歩は積極的に向かっている。感染症拡大の状況を見て一時帰宅や買い物等に出かけ喜ばれた。隣接事業所へ出向き、楽しい時間を過ごすこともある。	

グループホームグリーンライフヴィラ荒尾

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブルなどのリスクが高いため、当事業所では基本的に事業所預かりとなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	離れている家族や知人に会えるよう支援したり、電話できるように支援している。個人で携帯電話を持ち込み、利用されている入居者も居る。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を維持するため、プライベートスペースには基本的に何でも個人のものを持ち込めるようになっている。また、過剰な光の刺激や音の刺激がないよう、常にカーテンで調光したり、TVのボリューム調節など行っている。	入居者が自由に移動できるよう、建物内は手すりや立ち止まり休憩するスペースが所々に設けられている。集団生活の中でも「一人になりたい時間」を大事にしており、廊下にも一人掛けの椅子やソファが何か所も用意されており、思い思いの場所できつるることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室や共有スペースで、気の合う入居者同士で過ごせるよう支援している。また、ホーム内随所に一人になれるように椅子を設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者のアルバムや寝具、調度品など使い慣れたものを使用していただくようにしている。仏壇などを持ち込み、以前より信仰のある宗教を継続していけるような配慮もなされている。	洗面台が完備されており、趣味だった手芸品や好きな花が持ち込まれている居室もある。生活用品は入居者それぞれで、化粧品や身支度の用品等からも、入居者それぞれの生活が継続して営まれている様子が見える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自作の簡易式手すりなど設置し、自立支援を意識した環境作りを工夫している。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グリーンライフヴィラ荒尾

作成日 令和4年 3月 5日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	当該事業所職員のみで、夜間を想定した独立した消防訓練が必要。	年に一度は夜間を想定した当該施設単体で行なう消防訓練を行なう。	当該施設単体で行なう消防訓練を行なう旨を消防計画に盛り込む。定例化させる必要がある。	2年
2	2	地域と事業所との交流が少ない。	コロナ禍ということもあり、難しい面もある。しかし、その中でも交流を得るための場は模索していく。	コロナ禍が落ち着いた際には、地域との交流を盛んに取り入れていく。サロンなどを開設し、事業所の方から積極的にアプローチしていく。	2年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。